



「隠れキリシタン」という言葉の響き

おおすぎ ようこ (友の会会員)

隠れキリシタンという言葉には、寂しくて優しく一途な人たちという印象を持ちました。長崎の日本一十六聖人殉教者の中にも、徳島の人が入っています。どこであったか忘れましたが、県西の方の人が捕らえられて塩漬けにされ、城下へ運んでられたこともあったようです。

県内にも隠れキリシタンにかかわる石造物があります。最近教えていただいた石造物は、三好市池田町にある県立三好病院東側の大師堂敷地内にありました。国道192号線改修工事のため、周辺にあった石造物が一所に集められたようです。その中に寛文10年(1670)の銘がある庚申塔があります。笠の正面のくぼんだところに十字が、その下には桔梗の紋が刻まれています。歴史の好きな方ならガラシャ夫人を思い出されることでしょう。

徳島市内にも、八万町下福万の慈眼庵(ユウガさん)に切支丹燈籠の竿石だけが残っていて、庚申塔



背中にクルスのある地蔵(小松島市松島町)

としてお祀りされています。八万町上福万の北向き地蔵もキリシタンに関係があるらしいと聞きました。美波町田井の地蔵庵には、胸にクルスらしきものがある観音様があります。また、小松島市松島町の木村医院の近くに大きな桶があり、そのそばの祠の中にお地蔵さんがいます。50年くらい前、道路拡張工事のため、以前駐在所があった所から移動した時、背中にクルスが発見されたということです。石井町石井の童学寺にもよく似た燈籠があり、竿に十字形と人物像が刻まれています。寛永年間に奉納されたようです。さらに、徳島市立徳島城博物館の和室の前にも寄贈された燈籠があり、竿にマリア様らしき姿がはっきりと確認できます。

蜂須賀家政公もクリスチャンだったという説がありました。阿波公方ゆかりの女性も物議をかましたことがあったそうです。東山手町の瑞巖寺の山門に入って左側にお堂が並んでいますが、奥の方のお堂の中には織部燈籠があります。なぜお堂の中にあるのでしょうか。不思議です。



童学寺境内にある燈籠(石井町石井)

回想録 徳島県産チャマダラセセリとの出会い

三好 康彦 (友の会事務局員)

1 出会いは偶然かつ感動的

チャマダラセセリは徳島県では過去に偶発的な採集記録〔剣山(山頂)、祖谷谷(東祖谷山村名頃～菅生)(「四国の蝶」より)〕はありますが、常時観察できる場所は知られていません。もちろん、私も徳島でのチャマダラセセリの採集経験はありませんでした。



児童とわたし(卒業遠足)

そんなある時、忘れもしない27年前の春、1987年3月22日、当時勤務していた徳島県三好郡山城町立上名小学校の卒業生9人と5年生5人を連れて卒業遠足に津屋牧場へ行った時のことです。津屋牧場は標高約900～1000mの山の頂上付近に位置しています。午前9時30分に小学校を出発し、牧場へ向かう細い道を歩き午前11時30分に無事到着しました。風は冷たく、未舗装の道沿いの斜面には太いツララがいくつもぶら下がっていました。

一服していると、尾田一紀君(卒業生の一人)がミヤマセセリを採ったと持って来ました。「小さなミヤマセセリのように思うんだけど・・・」と差し出した蝶はまさに、チャマダラセセリでした。ミヤマセセリに比べずっと小さく裏面の色は赤みの

濃い個体です。表は茶色地に白というかクリーム色に近い紋がいくつもちりばめられています。三対目のあしの付け根から毛が出ており、間違いなくこの蝶の特徴を備えた♂(オス)の個体だと思いました。

こんな所にいるなんてという意外さに驚き、また、こんな身近に生息している事実に感動がこみ上げてきました。うれしさのあまり、「チャマダラだ、チャマダラだ」と連呼していました。そんな私を見て、いつの間にか他の児童たちも「チャマダラだ、チャマダラだ」と連呼しながら蝶を探し始めました。

頂上へ通じる未舗装の道と道沿いの斜面の間が掘られて窪んでいました。雨水が流れたためにできたのでしょうか。そこを行ったり来たりしている小さな蝶が観察されました。それがチャマダラセセリだったのです。

(データ)

1987年3月22日(日) 午前11時45分 快晴
1♂(オス) 尾田一紀採集
この日 他に5♂(オス) 採集

こうして徳島県三好郡山城町上名津屋牧場(現在の徳島県三好市山城町上名津屋)にチャマダラセセリが生息していることが確認されました。

1987年夏、7月31日午前9時30分、津屋の牧場へ到着。未舗装の道を進んで頂上付近にある小屋の前までたどり着きました。今までの雨が嘘のようになやみ、広がった青空から、太陽がまぶしく照りつ



津屋牧場(2006年4月9日撮影)

けると、ムーンとした夏特有の蒸し暑さが戻ってきました。と、ススキの葉の上で、日光浴をするチャマダラセセリらしき蝶景を見つけました。慎重にネットイン。羽化したての新鮮な個体でした。羽の裏面は茶色味が強く、春型に比べてやや大きい夏型の♂（オス）のようでした。高鳴る胸の鼓動を沈めながら、さらに足を踏み入れて網でススキをたたくと何頭もの蝶が一斉に飛び出しました。夢中で網を振ると、網の中には7頭のチャマダラセセリが入っていました。なんと一振り7頭。「すごい」の一言でした。雨の滴で網はびしょ濡れになったけれど、夢のような採集ができ、生涯忘れられない思い出の一つとなりました。

(データ)

1987年7月31日(金) 午前9時30分～

40♂(オス) 6♀(メス) 採集

2 津屋牧場のチャマダラセセリの紹介

春型(写真1)は白紋が発達している個体(写真3)が多く、夏型(写真2)でも白紋が比較的残っています。飼育で得られた第3化のどの個体にも白紋が残っています。



写真1 チャマダラセセリ(春型)



写真2 チャマダラセセリ(夏型)

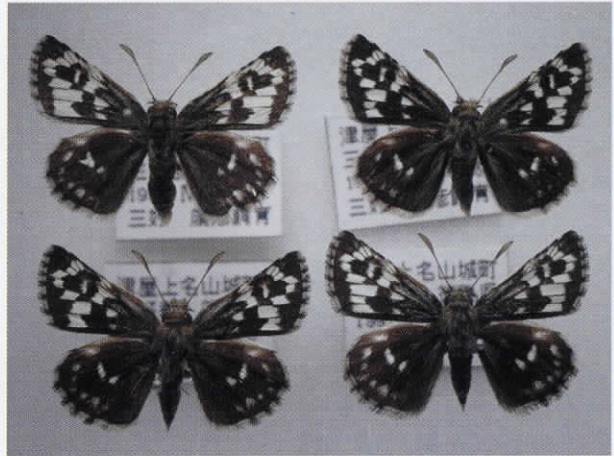


写真3 白紋の発達した個体



写真4 ミツバツチグリ(食草)

3 最後に

道路整備が進み、今では頂上まで切れ間無く舗装されています。放牧を中止してから、山が荒れ、草原は灌木の混じる林に変わりつつあります。チャマダラセセリの姿が見えなくなってもう17年になろうとしています。四国でチャマダラセセリの保護活動をしている愛媛県の道後でも、近年目撃記録はありません。保護活動に取り組んでいるのに姿が見えなくなってしまったのはどうしてでしょうか。原因はよく分かっていません。

しかし、どこかでひっそりと生息していることを信じていたいと思います。そして、近い将来、復活して生息が確認されることを祈っています。あれから毎年のように訪れているこの場所で、再び愛らしい姿のチャマダラセセリと出会えることを願っています。

初代会長 寺戸恒夫先生を偲んで

てら どんね お しの
たかしま よしひろ
高島 芳弘 (博物館長)

3月初旬、徳島新聞の記事で、友の会初代会長をお務めいただいた寺戸恒夫先生が3月2日に亡くなられたことを知りました。最近、顔をあわせることが少なくなっており、どうされているのか心配をしていたところでしたので、非常に驚きました。

先生と初めてお会いしたのは、博物館がオープンして間もない頃、先生が阿南工業高等専門学校を退職されて、徳島文理大学で教鞭をとっておられた頃でした。ご専門は自然地理学で、徳島地理学会の会長としても活躍されていました。それまでにも、文化の森建設事務局から地学分野の調査員をお願いしたこともあり、博物館のオープンに向けてお世話になっていました。

友の会活動への関わりについて振り返ると、1991(平成3)年に友の会が創立した当初から12年間にわたって、会長としてご活躍いただきました。園瀬川釣り大会、野外観察会、写生大会などの行事について、いろいろとアイデアを出されたり、園瀬川探検のような身近な地域の自然や歴史・文化を対象とした調査活動にも積極的にご参加いただきました。また、会員同士の親睦や友の会活動の活性化をめざし、それが博物館活動の充実やバックアップになるように、おおいに腐心されました。



「園瀬川探検」に参加された寺戸先生(右端)
(徳島市八万町)

ちょうど、1991(平成3)～1994(平成6)年の間、県立博物館の課題調査として、那賀川と海部川の流域における縄文遺跡の分布調査を計画していたので、協力をお願いし、段丘の形成や広域火山灰などについて、さまざまな助言をいただきました。強い好奇心をおもちで、石鏃や剥片など遺物の採集にも熱中されました。私のような若輩者に対しても、わからないことについては徹底的に質問されていました。また、ご自分の知っていることについては惜しみなく教えてくださいました。

最後にお会いしたのは、奥様を亡くされた直後のことでした。「体調を崩しているが、また野外調査に出かけたい」とおっしゃる声には張りがあり、まだまだお元気そうでした。

訃報を聞いて、お教えいただいたことのひとつさえも生かすことができなかったのではないかと後悔するばかりです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

友の会行事報告

藍染め体験

- 日 時 2月10日(日) 10:00～12:00
- 場 所 藍の館(藍住町)
- 担 当 松家京子・南部洋子(友の会役員)、
松岡功(博物館主任)
- 参加者 14名

藍染めの青い色は、「JAPAN BLUE」として世界に知られるほど深く鮮やかな日本の色です。自然豊かな阿波の風土を映すように深い魅力があります。この染料をとるために、阿波では古くから藍が栽培されてきました。阿波藍の歴史は平安時代にさかのぼるといわれ、やがて、吉野川流域は日本最大の藍作地帯として知られるようになりました。阿波藍は、流域の人々に大いなる繁栄をもたらし、さまざまな文化を育ててきました。



写真1 中庭での見学の様子



写真4 藍染めの体験2



写真2 展示室での見学の様子



写真5 染めたスカーフにアイロンをかける



写真3 藍染めの体験1

今回の行事は、藍住町にある藍の館を会場に実施しました。前半は阿部館長さんから藍染めの歴史や藍づくりについて解説していただき、後半は藍染めを体験しました。みなさん、バンダナやスカーフなどを染め、オリジナルの力作を作られました。

(松岡 功 友の会事務局)

Voic^e 参加者の声

かたおか
●片岡ツルエさん

少し肌寒い日でしたが、天気恵まれ楽しい1日でした。旧奥村家屋敷の優雅さ。藍の栽培には大変な労力がかかっているのだなと感心しました。また、楽しみにしていた藍染めでは、シルクのスカーフとバンダナを染めました。ジャパンプルーの深い色合いに染め上がり、さっそく使用しています。藍の種は3月下旬に種まきをして、天ぷらにしたり生葉染めをしてみたいと思っています。尺八の演奏も聞き、しばし幽玄の世界に浸ることができました。ありがとうございました。

しのはらゆうじ
●篠原雄二さん

館内を見学したりオリジナルの藍染め作品を作ったりすることで、阿波の伝統文化にふれる良い体験ができました。ちょうど子どもが社会科の学習で藍染めについて学んでいるところだったので、勉強に

なつたと喜んでいました。

●川野 愛さん

初めて藍染め体験をしました。時々ニュースで、藍の葉を手作業で乾かしたり混ぜたりするところを画面を通して見たことがあります。今回、「藍の館」の館長さんの説明を聞いて、藍を作る作業が大変な作業でとても苦勞していたことがよく分かりました。

苦勞した物ほど、良質な物、良い作品になるということ、手をかければかけるほど、ちゃんと自分に返事が返ってくる、そういうふうに聞こえました。

●築地堅一郎さん

本場にいなから染めたことがなかったので、良い機会と思って参加しました。天然藍の深い鮮やかな色に染め上がり、藍の魅力を改めて実感しました。また、藍生産の歴史では、かつての大藍商の繁栄の陰に、多数の生産従事者の厳しい労働と生活があったことを忘れてはならない、と思いました。



平成 25 年度友の会総会が、4 月 27 日(土)午後 2 時 30 分より博物館講座室にて開催されました。24 年度の事業報告・決算報告ならびに 25 年度の事業計画・予算案について審議が行われ、承認されました。

また、その後場所を 1 階企画展示室に移し、担当の松永友和学芸員による企画展「天下の台所大坂と徳島」の展示解説を行いました。

今年度も、宿泊を伴う行事を 2 回(キャンプ、一泊研修)、日帰りバスツアーを 3 回計画しています。その他にも楽しい行事がたくさんありますので、ふるってご参加ください。

1 平成 25 年度友の会行事

(1) 伊島を歩こう(雨天中止)

実施日 5 月 19 日(日)

場 所 阿南市伊島

(2) 深淵の自然観察(日帰りバスツアー)(終了)

実施日 6 月 9 日(日)

場 所 三好市東祖谷

(3) 自然体験合宿 in 室戸

実施日 8 月 17 日(土)~18 日(日)

場 所 高知県室戸市

(4) 平家の落人伝説(日帰りバスツアー)

実施日 10 月 12 日(土)

場 所 三好市西祖谷山村

(5) 化石を探そう(日帰りバスツアー)

実施日 11 月 16 日(土)

場 所 兵庫県南あわじ市

(6) 泊研修旅行

実施日 11 月 30 日(土)~12 月 1 日(日)

場 所 滋賀県近江八幡周辺

(7) 郷土料理を作ろう

実施日 1 月(日は未定)

場 所 博物館実習室

(8) 梅見ハイキング

実施日 3 月(日は未定)

場 所 神山町

※実施日や内容については変更することもあります。開催前月には会員の皆様に詳しいご案内をさしあげますので、ご確認ください。

2 広報活動

博物館広報印刷物(月別催し物案内、企画展チラシ、博物館ニュース、文化の森から等)を提供します。

3 図録の印刷および販売

- (1) 企画展図録「天下の台所大坂と徳島」の印刷・販売をします。(販売中)
- (2) 企画展図録「エイリアン・スピーシーズ」の印刷・販売をします。
- (3) 企画展図録「鳥居龍蔵の見た南九州・沖縄」の印刷・販売をします。

4. 友の会会報の原稿募集および発行・配布

会報「アワーミュージアム」No.52~53 を発行し、配布します。



平成 25 年度友の会総会



企画展「天下の台所大坂と徳島」の展示解説

5 会員募集

- (1) 博物館企画展チラシに会員募集の広告を掲載し、新会員の獲得を目指します。
- (2) こどもの日フェスティバル、文化の森大秋祭りで友の会コーナーを設置し、友の会のPRと会員勧誘に努めます。

6 友の会グッズの販売

クリアファイル2種（人文・自然）を販売します。

7 平成 25 年度友の会役員および事務局

役職名	氏名	備考
会長	鳥居 喬	
副会長	大杉 洋子	
	行成 正昭	
	高島 芳弘	徳島県立博物館 館長
幹事	伊勢ひとみ	
	澤 祥二郎	
	徳野 壽治	
	徳山 豊	
	中村 由香	
	松家 京子	
監査	石尾 和仁	
	南部 洋子	

役職名	氏名	備考
事務局長	美保 洋祐	徳島県立博物館 副館長
事務局員	三好 康彦	徳島県立博物館 課長補佐
	松岡 功	徳島県立博物館 主任
	磯本 宏紀	徳島県立博物館 主任
	辻野 泰之	徳島県立博物館 主任

『アワーミュージアム』53号への 投稿のお願い

アワーミュージアムへの投稿原稿が少ない状況が続いています。身近なおもしろいネタ、旅行に行つて発見したこと、博物館や展覧会等の見学記などなんでも結構ですので、お気軽にお寄せ下さい。



新スタッフ紹介



●美保洋祐（副館長）

4月の人事異動により博物館で勤務させていただくこととなりました。

博物館での業務は初めての経験で、もとより微力ではございますが、これまでの館や友の会の足跡に学びつつ、スタッフの一員として、より魅力的で充実した博物館、友の会づくりに貢献できるよう取り組んでまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。





新スタッフ紹介



● おかもと はるよ 岡本 治代 (学芸員・考古担当)

考古担当学芸員の岡本と申します。

出身は、すなむし砂蒸温泉で有名(?)ないぶすき鹿児島県指宿市です。大学進学を機に四国に渡り、学生時代を高知県で過ごしました。大学院修了後は1年半、香川県高松市で埋蔵文化財(遺跡や遺物)の調査をする仕事に就いており、その間、古墳時代から中世までさまざまな遺跡の発掘調査に携わってきました。

その後、縁あって昨年10月より当館で勤務することになりました。これまでとは違う職務内容に、とまどう部分も多いですが、職場の皆さんにご指導いただきながら、一つずつ仕事に取り組んでいます。また、友の会の皆さんには、不慣れな部分があるにも関わらず、暖かく迎えていただき感謝しております。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、私の研究テーマは、古代の屋根瓦生産です。「瓦を専門に研究しています」と一般の方にお話すると、「なんでまた瓦を?」と不思議な顔をされることが多いのですが、一歩足を踏み込んでみると、その先には奥深い世界が広がっています。瓦は、文献資料だけではわからない、古代のさまざまな歴史を語ってくれる資料のひとつだと私は感じています。

このような瓦研究の成果も含めて、考古学がひも解く歴史の世界を楽しくわかりやすく伝えられるよう、いろいろな行事を考えていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



【行事案内】秋の1泊研修旅行

ただ今下記の行程で準備中。

第1日目(11月30日・土曜日)

文化の森==徳島駅==とくとくターミナル==野洲市銅鐸博物館== (昼食) ==近江八幡街並み散策== 休暇村近江八幡(泊)

第2日目(12月1日・日曜日)

休暇村近江八幡==安土城跡==安土城考古博物館==琵琶湖博物館== (昼食) ==琵琶湖大橋==三井寺==とくとくターミナル==徳島駅==文化の森

2年ぶりの1泊研修旅行です。たくさんの会員様のご参加をお待ちしています。

新刊紹介

【図録】天下の台所大坂と徳島 —江戸時代の交流史—

2013年4月27日～6月9日の間、博物館企画展示室で開催された企画展「天下の台所大坂と徳島—江戸時代の交流史—」の図録を刊行しました。

ご関心のある方は是非お買い求め下さい。

2013年4月27日発行、全96ページ

1冊1000円(友の会会員価格900円)



アワーミュージアム 第52号

2013年6月30日発行 徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp